

メッセージアウトライン

コリント人への手紙 第二3:1～3「推薦状はあなたがたです」

[1]「私たちはまたもや自分を推薦しようとしているのでしょうか。それとも、ある人々のように、あなたがたにあてた推薦状とか、あなたがたの推薦状とかが、私たちに必要なのでしょうか」

「またもや」とあるので、以前パウロが自身の推薦のことについて言及していたことがわかる。そしてそのことについて誤解され、批判されたと思われる。しかし、それがどのような文脈で語られたかわからないが、パウロは自分で自分を推薦し、売り込もうとするような人間ではない。神ご自身が彼を立ててくださるのである。→使徒9:15、ガラテヤ1:2 またパウロが「ある人々のように」と言っている人々は彼に反対し、妨害するためにユダヤ人たちから、しかるべき推薦状をもらってやって来た者たちかもしれない。すると彼はここで非常に厳しい皮肉をこめて言っていることになる。

[2]「私たちの推薦状はあなたがたです。それは私たちの心にしるされていて、すべての人に知られ、また読まれているのです」

推薦状は推薦される人がどういう人物であることを示し、またそれを書く人が保証をするという役目があるが、パウロはここでコリント人たちこそ、彼がどういう人物であることを示す推薦状なのだと言う。神に書いた推薦状ならば、それを読んだ人しかわからないが、コリント教会の人々の生き方ならば、すべての人に見られ、知られている。それがどのような生き方であっても、良かれ悪しかれ人々の目につく。それはまた彼らに福音を宣べ伝えたパウロたち伝道者の心にしるされており、彼らがどこへ行っても、コリント人たちの生き方を示すことによって、彼らに福音を宣べ伝えたパウロたちの推薦状になるのである。

[3]「あなたがたが私たちの奉仕によるキリストの手紙であり、墨によってではなく、生ける神の御霊によって書かれ、石の板にではなく、人の心の板に書かれたものであることが明らかだからです」

ここは2節の補足説明となっている。コリント人たちこそパウロたち伝道者の奉仕によって救われた者であり、人間の書いた手紙ではなく、キリストの手紙である。この手紙は墨ではなく生ける神の御霊によって書かれた。すなわち聖霊なる神ご自身が働かれて実を結ばせてくださったのである。コリント人たちが堅く信仰に立って生きているならば、パウロが神によって立てられた使徒であるということがはっきりと証しされ、立派な推薦状となる。「石の板」とは石のようなかたくなな心のこと。「人の心の板」とはみこころに従う柔らかい心のこと。→エゼキエル11:19 コリント人たちはパウロたち伝道者の宣べ伝えた福音により、救いに入れられた。神のことは石にではなく、肉の柔らかい心に受け入れられたのである。このようにして救いに入れられた彼らは、その福音にふさわしく生きなければならない。このようにして彼らが生きていく時、「私たちの推薦状はあなたがたです」と伝道者は胸を張って言うことができるのである。